

1. 公共交通の充実を問う

開成駅ホームが駅の北側に延伸されて、今年3月から急行が停車するようになり、開成駅の利便性は格段に向上した。小田急電鉄ホームページによると乗降者数は一日平均約11,400人に到達していることが分かる。

平日の朝7時半ごろ開成駅に行くと、通勤者が西側ロータリーに降りてきて、企業バスのバス停に並ぶ姿が見られる。通学者は東側ロータリーから徒歩で高校に向かう。活気が見られる。急行が停まるようになってから半年になろうとしている本町としても、そろそろ公共交通の充実に力を注ぐ時期でもある。

一方、後期高齢者の運転免許証の返納も増える傾向があり、将来を見据えて町民の足となる公共交通の確保を考えておくことが重要となる。

足柄地域全体を見ると人口減少の加速が懸念され、公共交通の維持確保を考える必要がある。公共交通について、近隣市町と連携して対策を考えたい。このような背景を受けて町の考えを問う。

- ① 急行が停まる前と後の駅利用者数の変動は。
- ② 急行が停まる前と後の駅前ロータリー交通量状況の違いは。
- ③ 公共交通の充実の現況と課題は。
- ④ 公共交通の利便性の向上をどう図るのか。
- ⑤ 立地適正化計画を策定する考えは。
- ⑥ 地域公共交通網形成計画を策定する考えは。